

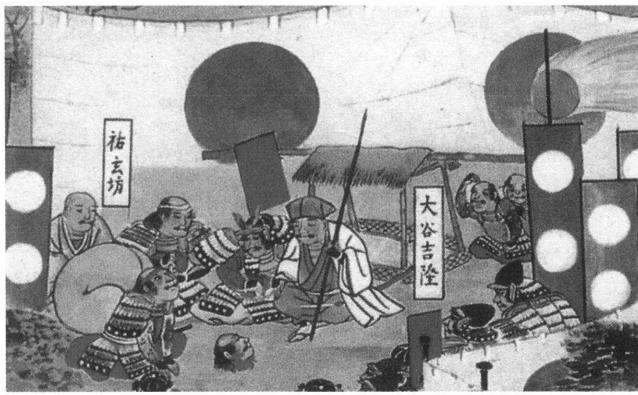
石田三成の盟友

大谷吉継の首塚

関ヶ原の合戦(1600)で、西軍石田方の参謀として奮迅の働きをした大谷刑部吉継(1559~1600)の首塚と伝えられている石塔です。小形の一石五輪塔で、半間四方の覆屋の祠の中に祀られています。大谷吉継は、現在の長浜市余呉町小谷在住の浅井氏家臣・大谷吉房の子といわれ、石田三成と同じころに羽柴秀吉に召抱えられ、関ヶ原合戦のときには越前国(福井県)敦賀五万石の領主でした。

江戸時代に彦根藩士によって著された『淡海木間攬』では、この塚を水口城主だった長束正家の墓と記しています。ところが『改訂近江国坂田郡志』第二巻(1941)によれば、正家は関ヶ原合戦後蒲生郡で自害し、その首は京へ送られており、正家の首塚ではないとしたうえで、関ヶ原での小早川秀秋の裏切りによって、西軍の敗北を悟った吉継が、敵に首を渡さないよう、湯浅五助の介錯で自刃し、甥の僧祐玄が首を錦の袋に入れて、敦賀への逃亡の途上に、この地に埋め隠したといわれています。いまでも地元の人々により、大切に守られ供養されています。

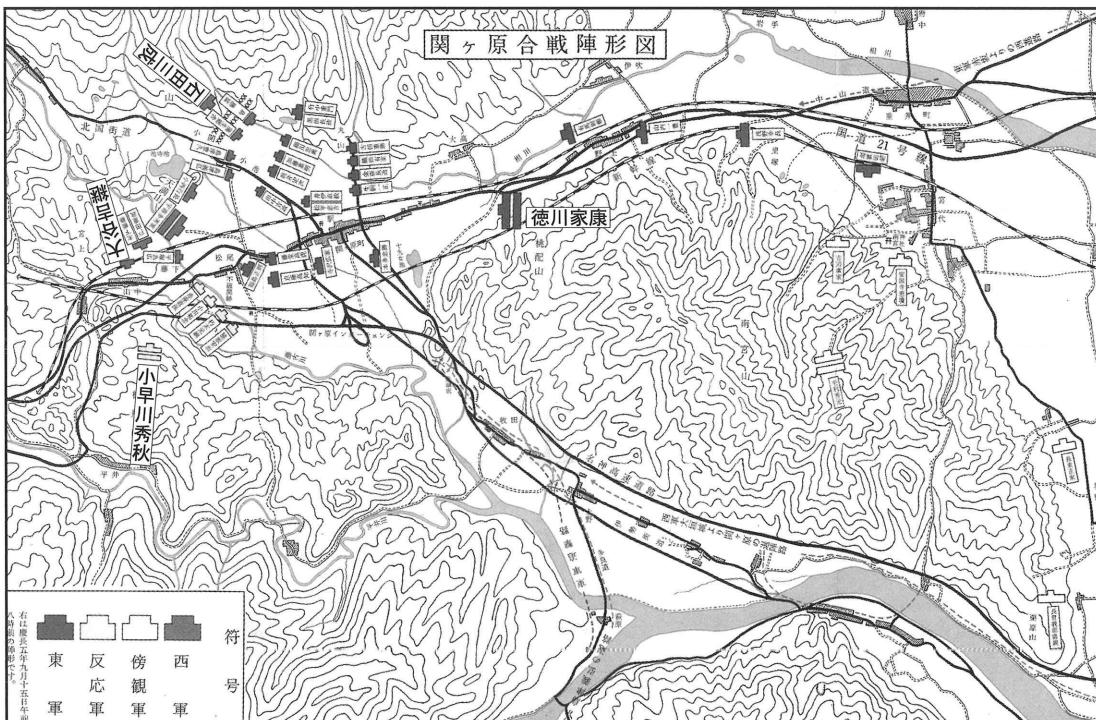




大谷吉継（『関ヶ原合戦図屏風』）
所蔵／関ヶ原町歴史民俗資料館



大谷吉継の墓（関ヶ原町）
※左は湯浅五郎の墓



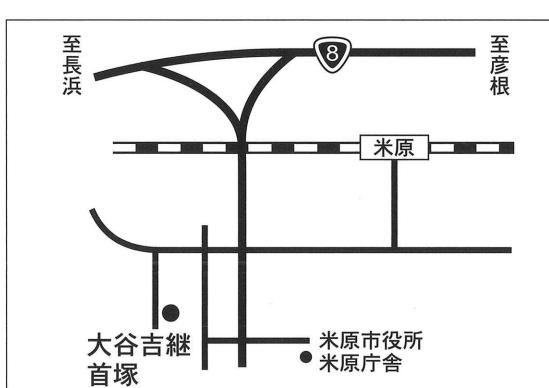
関ヶ原合戦陣形図（『関ヶ原町史』より）



敦賀城跡

敦賀と大谷吉継

吉継は、天正17年(1589)に越前国内で5万石を与えられ敦賀城主となり、敦賀城を三層の天守閣を持つ近代城郭に拡張・改修し、城下を整備しました。吉継の敦賀入邦は、日本海交易の要港で、北国の物資の集散地だった敦賀湊を秀吉直系の家臣に掌握させ、北国から畿内への輸送拠点、出兵時の物資調達拠点として機能させる狙いがあったようです。



大谷吉継の首塚

- 所在地 滋賀県米原市下多良
- アクセス JR東海道線米原駅下車。徒歩約15分。

米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1

TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業